

# 序

国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 海老澤 元 宏  
アレルギー性疾患研究部長

小児科臨床の特集として、編集委員の先生方より「小児アレルギー疾患の治療・管理の新しい展開」の企画のチャンスをいただき、我が国の第一人者の先生方にお忙しい中をご執筆頂きました。ご執筆頂いた先生方のご協力に心より感謝したいと思います。

内容は、〔Ⅰ. 基礎研究の進歩〕と〔Ⅱ. アレルギー診療の新しい展開〕として、1. 食物アレルギー、2. 気管支喘息、3. アトピー性皮膚炎、4. アレルギー性鼻・副鼻腔炎、5. その他のアレルギー疾患；アレルギー性結膜疾患、蕁麻疹、薬物アレルギー、金属アレルギーを取り上げました。一冊の本として刊行しても良いような大変充実した内容で、臨床の第一線で診療にあたる小児科の先生方にとっても役に立つと思います。臨床の構成は、まず臨床ガイドラインの解説を共通のスタート項目として、それぞれの疾患に関しての新しい捉え方、トピックスを取り上げました。

各アレルギー疾患のガイドラインも充実してきており、専門医の役割が変わりつつあります。例えば気管支喘息は吸入ステロイドの普及を始めとした薬物療法の進歩とガイドラインの普及により、昔のように喘息発作を起こす小児も少なくなり、診療所の先生方が診療の中心になってきています。小児のアトピー性皮膚炎もスキンケア、ステロイド外用療法の重要性の認識やガイドラインの普及、皮膚科医と小児科医のコンセンサスの形成により重症例も減ってきている印象を受けます。

現在、小児アレルギーの専門医に求められることは、乳幼児喘息の診断・管理、食物アレルギーの食物経口負荷試験、アナフィラキシーの管理・治療、免疫療法などのウエイトが大きくなってきております。我々の施設に研修を希望される若い先生方の目的もそのようなことが中心になってきています。

今回の特集号はそのような背景を考えて企画しました。アレルギー疾患をコントロールすることができても、寛解、治癒させることはまだまだ不十分です。

本特集号がアレルギーを志す若い先生達の知的好奇心を刺激するとともに、患者さんのより良いケアのご参考にして頂ければ幸いです。